

を有機  
の動線  
の融合・  
を有機  
を経て、来年1月8日に  
候補者を特定する。担当

600  
であり、  
を含む建  
用地取  
0万円、  
備品等の  
00万円

否は、代  
日に通知  
日に現地  
別対話は  
フレゼ

員8人で  
員会（渡  
向大学長  
る審査を  
に落札者

局経営企  
084-

# 老朽化状況や最新事例を共有 第4回意見交換会開く 整備局と5県診断士会

などの事業を報告したほか、管内における橋梁・トンネルの状況や点検・診断を進める上での課題についても情報交換した。

会には、整備局から西

岡寿雄道路保全企画官、板谷行順道路構造保全官、山本順也道路構造保全官ら維持管理部門の幹部が出席。5県の診断士会からは、広島県の岡田繁之副会長（橋梁調査会）、岡山県の海野達夫会長（エイト日本技術開発）、山口県の瀬原洋一会長（トキワコンサルタント）、鳥根県の松浦寛司会長（エイト日本技術開発）、鳥取県の鶴石健治会長（やまこう建設）ら正副会長級が参集した。

所用で欠席した広島県の竹田宣典会長（広島工業大学）の代理であいさ

今年度から新規事業として進める「井関地区第2

つに立った岡田副会長は、会長不在を詫びたのち、「第4回目となる本日の意見交換会は、前回までの内容を引き継ぎ、5県の活動報告と整備局様の情報提供ののち、双

方から話題を提供する形で進めさせていた。ぜひ活発な意見をお願いしたい」と呼びかけた。診断士会側の活動報告では、各県で積極展開している技術向上のための

各種研修会や現場見学会、行政等への講師派遣、さらには診断士育成に向けた受験対策講座や高校への出前講座などの事業を紹介。

続く整備局側からの情報提供では、管内橋梁・トンネルの老朽化の状況のほか、各道路管理者による点検・補修の進捗状況などを報告。再劣化に関する最新事例なども共有した。

また、双方からの話題提供では、AI技術活用への展望、診断士資格保有による施工者サイドのインセンティブ、再劣化の要因などについても議論が及び、診断士会側がさらなる技術向上のため、この日紹介されたデータ等の開示を求めたことには、「出せるものは出し

う。履行期限内で未まで。来年度か

業費について  
段階で8億田  
億円、委託料  
見込んでい  
町では昨年  
／PFI活用  
導入可能性調  
算定）を行  
めたが、検討  
主体による開  
町営による  
め、今年度当

## サンヨー防球ネット

